

かがやきプラス 中学生家庭版



テーマ 子どもの自立と地域のつながり

「子育ては多くの人とつながって」

金城大学短期大学部 幼児教育学科 准教授 よねかわ しょうこ 米川 祥子

中学生という時期の心の発達

中学生の時期は発達段階でいうと、もう子どもではない青年期。簡単にその特徴を列記します。

- 子どもでもない、大人でもない狭間期。それまでに構築してきた児童期までの人格を、自らの価値や理想、将来の生き方などをもとに見直し、再構築していく発達期。
 - 自己を客観的に、そして抽象的にみたり理解したりすることができるようになる。
 - 身体や性の成熟によって他者のまなざしに敏感になり、そのことが自己への関心を引き起こしたりする。
 - 自立、進路、友人関係、異性といった青年期の発達課題に取り組みながら、「自分は何者であるのか」「自分は何者になりたいのか」という問いに自分なりの答えを見つけ出そうとするようになる（アイデンティティ形成）。
- （「発達心理学事典」日本発達心理学会編より）

特に中学生の時期は青年期の入口ですので、心身の変化に戸惑い、自己（自分の内面）への傾倒が著しく、悶々・イライラしやすくなっている時期といえましょう。

イライラ青年期への対応について

何となくトゲトゲしている中学生時代。周りの大人の対応には、カウンセリングの技法が参考になります。カウンセリングにおける関係作りの技法をご紹介します。

- ①受容…「そうなんだ」「なるほどね」と相手の思いを受け取る（自分の価値観は横に置いておいて）。
- ②支持…相手の話の中に賛同できる部分があったら「そうだよね」と賛意を示す。
- ③くり返し…相手の言葉、話の内容をくり返す。

この3つの技法を使って、相手に「自分のことわかってもらえた～」という気持ちになってもらうことが良い関係作りの第一歩です。



『自主性』をもって

(中2女子の父)

自主性、自立性とはなんだろう？ん～、辞書で調べてみる。「自主→やるべきことを自ら取り組む。」「自立→自分一人の力で物事を行う。」そこで思い出す娘の姿。朝寝坊し慌てて朝食を食べる姿、使ったものはその場に置いたまま、脱いだ服は裏返しのまま洗濯機へ、そして妙な集中力を見せるテレビドラマ鑑賞…。このままでいいのかが娘よ…。大きな大きな不安を抱える父。

でも、どこかに自主性、自立性の片鱗があるのではと娘の様子を気にかけてみる。部活で先輩にあいさつする姿、使った道具を整えておく姿、試合会場までの送迎車の段取りをメンバーと調整する姿。家では見たことない姿がそこにある。学校の指導ありがたい。家ではどうだろう。よく見ると、ベットに餌をやる姿、妹や母のために毎日お茶を沸かす姿、苦手だった読書を楽しむ姿などなど…。頑張ってることあったんだ…。娘の姿を気にかけていなかったこと、そして「助かるわー！」の一言を伝えていなかったことを反省する父。きっと自分を認められる経験こそ、自主性、自立性を育てていくために大切なのだろう。そういえば父自身が子どもの時も、周りの人に頼りにされると頑張れたような気がする。

『自主性』は自分の役割を果たす力。『自立性』は独り立ちに向かう力。我が娘に父としてできることは、「助かるわー！」「すごいな！」をいろんな場面で伝える『自主性』を持つことなのだろう。

自主・自立の心を育てるために

(中3男子、中2男子の母)

「成功体験を積み、自信を持つことで、自主性が育ち自己の課題にも目を向けられるようになる」子育て講演会でお聞きしたお話に共感を覚え、我が家では、良かったところを具体的に褒めるようにしてきました。「見通しを持って行動できたことが素敵、部活で率先して声出して偉いと思う、前回の失敗を生かして行動できたことが成長！」など、気恥ずかしいくらいストレートに伝えています。

もちろん、こうして欲しいという注文も伝えますが、そこはストレートではなくユーモラスを交えながら。「こんな子に育てた親の顔が見てみたい」は何度使ったことでしょうか。兄弟それぞれの長所・短所を認めつつ話題にすることで、反抗する時期もありましたが、自己分析できるようになり、苦手にも取り組んでいます。

また、「愛情を感じることで、誰かの役に立ちたいという自立心が生まれる」という、自分の成長過程での気づきから、家族の愛情だけでなく、沢山の人の見守られていることに気づかせるような声かけもしてきました。日々お世話になっている先生方、ご近所の方、部活でお世話になっている保護者など、親が発した感謝の言葉を、子どもたちなりにキャッチしているようです。

母の日に、修学旅行の小遣いの余りで花を買ってきてくれた長男、自分の担当でない風呂掃除を進んでしてくれる次男の姿に、今までの子育てに合格点を貰えたかなと思いつつ、今後の成長を見守っていきたいと思います。

あの角をまがりきるまでみてるでしょ
そのあとすぐに仕事場へ急ぐ母の優しさに
ペダルをふみこむ朝7時

栃木県下野市
中学校1年 小林 萌音

「たまには頑張らなくてもいいんだよ」
その一言が
私に頑張る力をくれました

宮崎県東臼杵郡
中学校3年 黒田 雪峰

今の時代
片手にスマホ、こども無視
こどもは願う「スマホになりたい」

岩手県和賀郡
中学校3年 和泉 亜弥

なんで？なんで？の問いかけを連呼していた
幼かった息子 今では、私が息子に
なんで？なんで？を連呼する。

富山県氷見市
一般 竹原 麻衣

家庭教育に関する指針 「家庭で子どもを育むための8つのすすめ」

家庭は教育の出発点であり、子どもの心のよりどころです。子どもが安らぎを感じながら健やかに成長できるよう、かつて大人自身が家族のふれあいの中から教わった「大切なこと」を、子どもに伝えましょう。

1 持ち続けよう 子どもとともに 学ぶ姿勢

子どもががんばったことは大いにほめて、お手伝いや学習、読書などに自ら取り組む意欲を伸ばすとともに、大人も「気づき」や「学び」を得る機会を持ちましょう。

2 きちんと守ろう 社会のルール 大人が手本

「子は親を映す鏡」、大人の行動を見ています。自らの行いを通じて、礼儀やマナー、言葉づかいを教え、良くないことはきちんと叱って善悪の判断ができるようにしましょう。

3 声かけよう 笑顔であいさつ 朝一番

自分からあいさつすることで会話が生まれ、家族の絆が強くなるとともに、地域の輪も広がります。笑顔のあいさつに心がけましょう。

4 創ろう あたたかい家族のふれあい

子どもに笑顔で接し、心によりそい共感すると、子どもは安心感を持ち、前向きに考えることができます。家族のふれあいや会話を大切にしましょう。

5 大切にしよう 思いやりの心 すべての命

子どもが受けた思いやりは、子ども自身の思いやりの心、ゆずりあいの心につながります。自分や他者の生命の尊さを伝えましょう。

6 伝えよう 心のこもった「ありがとう」

「ありがとう」と言われたうれしさは、人やものに感謝する心を育みます。日頃から、子どもに感謝の言葉を伝えましょう。

7 育もう 子どもの健康 「早寝 早起き 朝ごはん」

規則正しい生活リズムと食習慣は、一日のやる気と元気の源です。基本的な生活習慣と外遊びや運動で、たくましい心と体を育みましょう。

8 支えよう 子どもの夢と可能性

家族は子どもの一番の応援団です。いろいろな体験を通してチャレンジ精神やあきらめない心を育み、夢に挑戦する姿勢を温かく見守りましょう。

家庭教育の相談窓口の紹介

金沢市教育プラザ 研修相談センター 子ども総合相談センター	①おはなし電話	子どもの発達や学校生活、子育てなどに関する相談に応じます。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.076-243-0874
	②子ども専用 相談ダイヤル	子ども専用の通話料無料の相談電話です。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.0120-92-8349
	③いじめ電話相談	いじめに関する悩みごとについて、電話でお応えします。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.076-243-1019
金沢市児童相談所	④虐待通報	子どもの虐待に関する通報を24時間体制でお受けします。	Tel.076-243-8348
	⑤児童相談所	18歳までが対象です。相談内容は養護、保健、心身障害、非行、育成、虐待等です。(平日9:00～17:45)	Tel.076-243-4158
金沢市児童家庭相談室	経済的に困っている家庭の子どもに関する相談や、ひとり親家庭の相談に応じます。 (平日9:00～17:45)		Tel.076-220-2422
金沢市家庭教育サポーター	身近な地域の家庭教育サポーターが相談に応じます。 (連絡先 金沢市教育委員会生涯学習課 平日9:00～17:45)		Tel.076-220-2441

かなざわ家庭教育通信「かがやきプラス」は、家庭教育について考えていただく目的で発行しました。

年2回の発行を予定しておりますので、お役立てください。

かなざわ家庭教育通信「かがやきプラス」へのご感想・ご意見がありましたら、下記までお知らせください。

〒920-8577 金沢市広坂 1-1-1 金沢市教育委員会生涯学習課 Tel.076-220-2441 Fax.076-220-2488

E-mail syougaku@city.kanazawa.lg.jp